

どう しゅう しょう ぎょう じょ ひ

663年

(唐・龍朔三年)

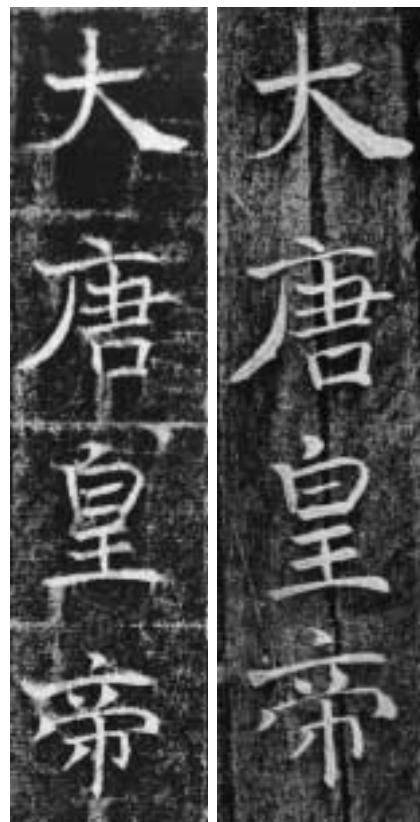
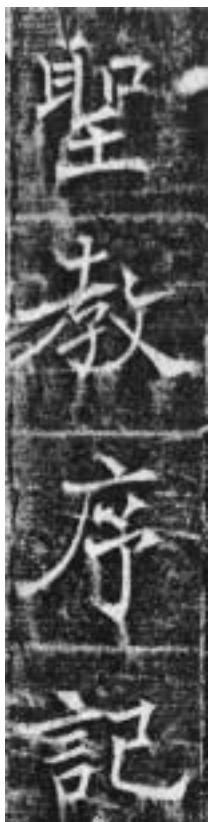
碑法帖拾遺⑨

木
雞
室

木雞室

伊藤 滋

「雁塔聖教序碑」との比較



「龍朔三年(六六三)」の建碑の年号



「同州聖教序碑」は褚遂良の作と伝えられる。この碑は、現在西安碑林博物館に安置されている。碑文は「雁塔聖教序碑」と同じである。(年号など一部が少し異なる。)書風、書体、文字の大きさもほぼ同じである。」雁塔聖教序碑は序碑と記碑の二つの石碑からなるが、「同州聖教序碑」は一碑のみである。碑末には、唐・龍朔三年に同州で書かれたとの款記があるが、「褚遂良書」の部分は、全体の文字の書風とはやや異なる。また建碑の龍朔

三年(663)は褚遂良の没後に当たる。(史書に拠れば、褚遂良は顯慶三年658年に没したと。)この碑に関しては古来より二つの見解がある。一つは、「雁塔聖教序碑」を模刻したものから刻されたものである。両者は、「雁塔聖教序碑」を模刻したものである。一は、褚遂良の別の書いたものから刻されたものである。両者を比較してみると、書風はほぼ同じであるが、点画の微妙な抑揚は全く異なる。「同州聖教序碑」の方が、やや硬い趣を感じさせる。しかし褚遂良の楷書習の面白い資料であろう。

音於就鳥岑
法流轉雙輪
鹿苑排空寶蓋
接翔雲而共飛

图版原寸大

書道芸術院 平成の書(2008)

第61回書道芸術院展「脩己以安人」



柚 口 青 萍

財団法人書道芸術院
名譽顧問



「脩己以安人」

論語、憲問

わが身を修養して 周囲の人たちを安らかにさせる。

己を脩めて 以て人を安んず。

含蓄のある語句で至難の業であるが、自戒の語としても大切にしたいと思い、これを選んだ。写実的にきちっとしたものでは面白くないし、あまり変形したのも興味を欠くのでその中間的な構成にしてみた。(本年度書道芸術院 展出品作)

私は富岡鉄斎の書や中川一政の書を愛し、数多く臨書してきた。書家の書とは一味も二味も違うところがたまらなく好きである。然し、自作の書の時、注意せねば倣臨になる恐れがある。この辺が最も難しいところである。誰にも似ない自分の書が書きたいものである。

さて話は変わって4月21日散歩中に不注意で転倒してしまい右足大腿骨を骨折してしまい、通行人のお世話を救急車に乗せられ、病院へ直行その後、手術して入院すること約70日間でやっと退院しました。未だ歩行困難で不便をかこっております。筆を執ることもままなりません。いづれ時日の経過と共に治ると念じております。

書のひろば

理事長 恩地春洋

「毎日展の書」を弾く

——関西展の試み——

“書を弾く”と題して氣鋭の音楽家が毎日関西展60回記念特別企画として書の印象を即興で作曲、演奏した。

この企画を聞いた時、ムソルグスキイの「展覧会の絵」を思い出し、画期的な実験に興味をそそられた。

○素材としての書

作品陳列の日、音楽家は、どんな作品に興味を持つのだろうか、どんな作品を素材とするのだろうかと想像しながら改めて作品を見た。

- ・抒情的な作品が理解し易いだろうか
- ・気韻生動して訴えかけてくるもの？
- ・哲學的な、考えさせる書は……

○どう表現するか

視覚的に捉えたものを音（聽覚）として再現する、今回の大きなテーマである。

○気鋭の阿部裕之先生

さて、当日見えた阿部裕之先生は五十代かと思われるお若い先生だった。場所は京都市美術館、201号室、天井が高く、音響効果も悪い、冷房も止めて50分のピアノの演奏が始まられた。

○書と音楽の交流



（メモ）
「作曲された作家名」 順不同
稲村雲洞 西野象山 内山玲子 恩地春洋 菅野清峯 森本龍石 作田英嗣 水嶋山耀 小山やす子 北野撮山 小伏小扇 成田翠洋 中野北

京都市立芸術大学教授

阿部裕之

プロフィール

第49回日本音楽コンクール1位。東京芸術大学音楽学部卒。パリではM・ラヴェルの直弟子V・ベルルミュテル氏に師事し、M・ラヴェルの作品を集中的に学ぶ。1983年フランス・エビナール国際ピアノコンクールで銀メダル。ドイツ国立カールスルーエ音楽大学修了後、東京フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団との協演や、国内外での録音など幅広く活動。鋭い感性と多彩な音色のパレットから描き出される独特的の響きと奥深い音楽は、高く評価されている。

流はあったが、書作品を見ての作曲は始めての試みで色々の問題を投げかけた。
・前衛書と西洋音楽は共通点があるようない気がした。

・書と日本音楽なら共通点が更に多いかも知れない。（余白や空間の問題）

・今はピアノだったが、色々な楽器が考えられる。（準備、移動など）

・若い音楽家がよい（感性、行動力）など



前衛書 (六)

三森慧香



「作品2008-6」

三森慧香書

まとめて、ぱらぱらのものをそろえ、整った状態にするらしいのですが、私は最初にそれは無理と申しあげてあるから気が楽だ。墨色は黒色とは違って、色艶が入る。墨が持つおもしろみやおもむきが存在する。それを使いこなせるかどうかだ。赤もむずかしい色らしい。この赤を追求する高名な画家がいらっしゃると聞く。おもねる・感動を与える・主張は危険な三角関係にある。魔のトライアングルだと私は思う。正三角形が良いのか、二等辺三角形が良いのか、不等辺三角形こそがいろいろな考え方がある。しかし、それこそがおもしろみであっておもむき

私は絶対に近い将来、せこくてなにが悪いのよなんてことを言わないようになるのが、なによりも先決だ。せこいなんて、真っ平御免である。

木がある。そんな大木は考えてはいない。そそとした「杉田杉」の若木ほどを目指したい。同じく隣に「せい」と「悪い」へたである。けちくさい、みみっちいがあつた。

ではないか、そう声高に言いつつ、なんとか私の作品に目を向けてもらいたい。セコイアという世界最大の

木がある。木がある。そんな大木は考えてはいない。そそとした

漢字 (六)

有野玲扇

個展
「from the UNIVERSE」(6)



90×120cm

書作品は自刻の落款印を押し初めて完成するものだと考え、篆刻にも取り組んだ。印稿作りの際には、「BIG BANG」

にはローマ字を放射状に配し爆発のイメージで、「TWILIGHT」には星形で、「天地創造」には力強い線と空間のバランスを、などと考えながら作品制作と平行作業を進めた。彫ることを通して書作においても、紙に刻するような強い線の表現へと変化を感じ始めた。

作品集も作品の一つと考え、想いが伝わるものに仕上げたく、撮影や印刷の現場に足を運んだ。編集では書作とは違った感性や創造性が求められたが、ものづくりの原点である“自己表現”という点では共通するものがある事を学んだ。

個展は今までの財産を使い果す様なもの、常に次のテーマを見据えておくべきだと聞く。

今、私は東巴文字に出会いその魅力の虜になっている。もう一つの象形文字といわれるこの文字で「to the UNIVERSE」を表現してみたいと思っております。

未熟ながらひとつめの夢を叶えられたのも、小伏竹村先生、小伏小扇先生はじめ先輩や仲間、その他多くの方々のお陰と感謝申し上げます。また、誌上でこのような機会を与えていただきこと御礼申し上げます。

創立35周年記念

日本の詩歌と書の世界

日本詩文書作家協会

主催＝日本詩文書作家協会 後援＝毎日新聞社・全日本書道連盟

会期＝2008年6月10日(火)～15日(日)

会場＝東京セントラル美術館
(名鉄メルサ5F)



辻 元 大 雲



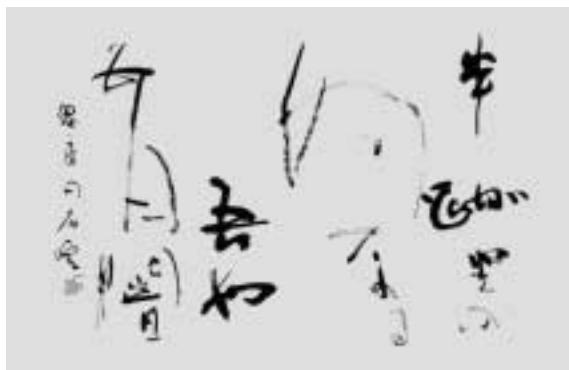
浜 田 一 堂



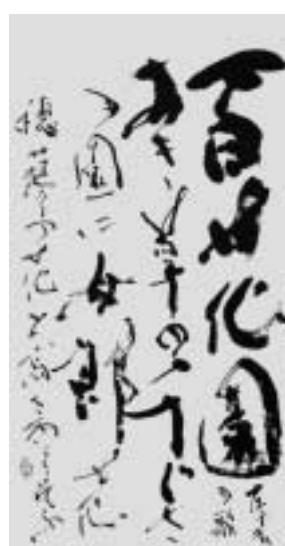
砂 本 杏 花



飯 高 和 子



小 竹 石 雲



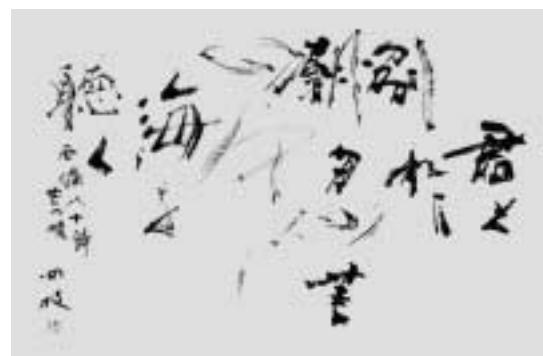
尾 形 鼎 山

富浦にふたむかひ夏風の夜の
むくまく涼すゞめ、扇の

最首翠風

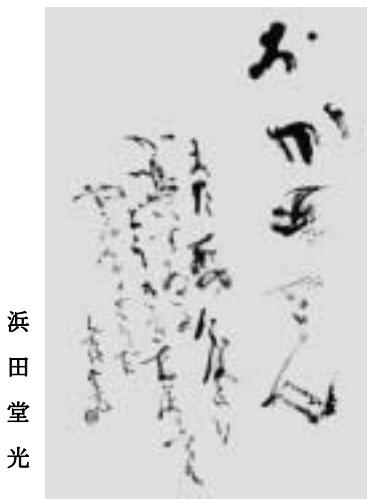
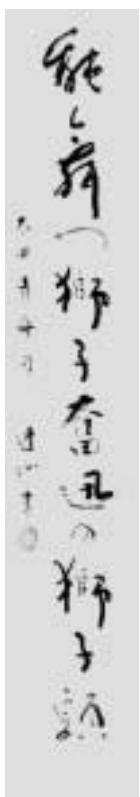


坂本素雪

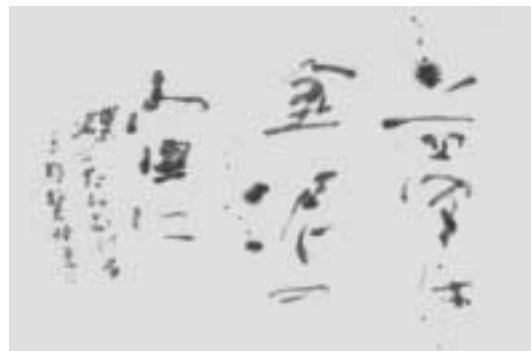


長井四枝

小野寺逢仙



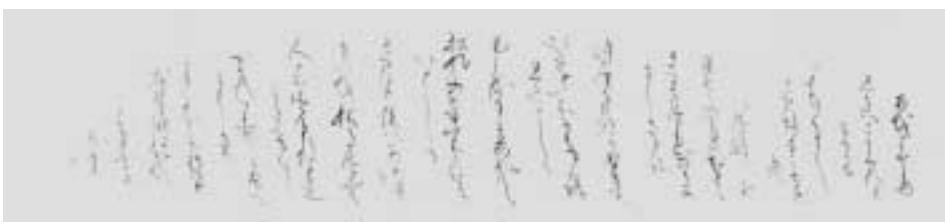
浜田堂光



畠中弄石

会員賞

特集 第60回毎日書道展



かな部 木村東舟

木村東舟
(かな部)

この度、第60回毎日書道展において過分なる賞をいたしましたこと本当にありがとうございました。深く御礼申し上げます。手の届かぬ無縁の賞でしたので只驚くばかりです。これもひとえに書道芸術院理事長の恩地先生を初め諸先生方、また師匠の下谷洋子先生のご指導のお陰と、重ねて御礼申し上げます。親子二代にわたりご指導いただき40数年経ちました。勉強不足の自己を振り返ると反省する事しきりです。先生はどれ程歯がゆい思いをされた事かと胸が痛みます。幸にも会の先輩の先生方・お仲間・家族に助けられながら何とかやって参りました。今これからがスタートです。改めてスタートラインに立ち、初心忘ることなく書道芸術院のため、また会のためにお役に立たねばと思つております。どうぞご指導よろしくお願い申し上げます。

会員賞

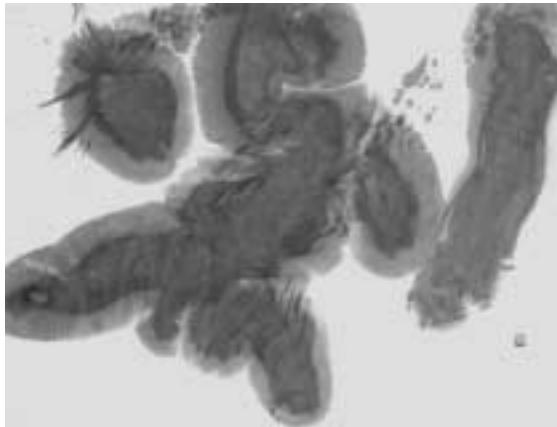


近代詩文書部 大平邑峰

大平邑峰
(近代詩文書部)

書道を志して社会人生活がスタートしたのが26年前のこと。それが20年前から高校教員との二足のわらじに。その後の年月が毎日書道展会員としての20年となり、今回同展60回記念展において栄えある会員賞を授けていただきました。師を始め多くの方々に祝福の言葉をいただきました。しかし自分のような者がいただいてよいのかという思いはぬぐいきれず展示会場の国立新美術館を訪れました。会場の展示室で自分の作品の前に立つ、万感込みあげるものがありました。牛歩の如くありました。が、続けてきてよかったです。ついで胸がいっぱいになりました。夢のような事が過ぎ、今思っているのはこれからのことです。これまでご指導ご鞭撻くださった先生方、先輩諸氏の御厚情に報いるべく、また、悔いのない書道人生のためにも心機一転頑張る気持ちであります。本当にありがとうございました。

大字書部 前田龍雲



会員賞



前田龍雲
(大字書部)

受賞のよろこび

数年前から「いつ会員賞をとるのか? もうそろそろ…」などと周囲から嫌というほどプレッシャーをかけられていた。自分自身はまだと思っており、第一報をいたいだ時は驚きとともに「ホッとした」が正直な気持ちである。これでもう言われなくなると。

今年は、作品を書こうとした時に大雨が降り、思った墨色が出せず苦労した日が多かったが、とにかく楽しく取り組めたのが一番良かった。外柔内剛の線質と爽やかな墨色を意識した。

賞をいただけたのは、恩地春洋先生はじめ、皆様方のお力添えがあつてのこと。期待を裏切らぬよう、焦らず驕らず着実に、色々なことに取り組みたい。人との出会いを大切に、いつまでも、誰もが楽しい書道の会を維持すべく微力ながら尽くしたいと思う。ここからが新たなスタートである。



会員賞



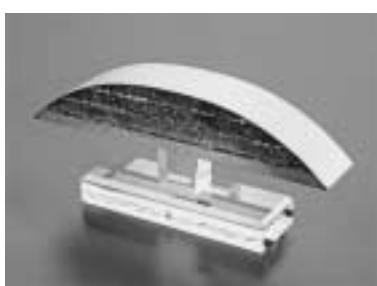
平岡千賀子
(前衛書部)

「冥加」ふたたび

書道舎会長の浜谷先生との出会いにより、峰雲賞、そして今回、会員賞を受賞することが出来て、ただひたすら感謝の気持ちでいっぱいです。ひとり感謝の気持ちでいっぱいです。ひとり挫折した私を救い上げていただき本院への復帰が適い、今回の受賞に繋がりました。また迎え入れて下さった恩地理事長はじめ院の諸先生方のお蔭であり、同志の書道舎の皆さん心温まるご支援によるものであります。

これから、関係各位からいただいたご恩に報いるよう、力の限り精進いたします所存でございます。

「あたりまえのこと」を「ちゃんとやること」のルールによりコツコツ力をつけ、院の発展に尽していくたいと存じています。いろいろご支援下さいましたことに重ねてお礼申し上げます。



会員賞(副賞)

第60回毎日書道展総評

辻 元 大 雲

還暦、華甲の記念すべき開催となつた毎日書道展は、各種の記念事業企画を交え盛大に開催された。展覧会は昨年に統一新美術館と東京都美術館の二会場となり、展示区分も昨年の反省を生かし、前期にかな・近代詩文書・篆刻・刻字、後期に漢字・大字書・前衛書を基本とし、国立新美は東京展関係全部と四国展、その他の地方展関係は東京都美術館に陳列された。国立新美は前後期をさらに一期二期に分け、かく行な行を一期、は行あ行が二期となりやや複雑。わかりにくかったが、陳列作業は幾分楽になつたようだ。

記念展としての入賞枠の増加もあり、出品点数は下表のとおり大幅に増加した。来年の会員賞も各部一点増の33点（昨年は26点）、本院からはかな部木村東舟、近代詩文書大平邑峰、大字書前田龍雲、前衛書平岡千香子の4氏が入賞、4名入賞は久しぶりで今後に期待したい。毎日賞以下各賞も昨年を上回る好成績であった。

しかし、展覧会運営の内実は厳しく検討する必要がある。会友制度の運用、会友公募の在り方、漢字・かなの一・二類分けの是非も含め、今後に向けて検討を加えなければならないと思う。

60回展記念事業の詳細は恩地理事長の「書のひろば」で既報であるが、

「春敬の眼＝飯島春敬コレクション」

は国立新美一室をすべてガラスケースで特設し、ケース陳列と合わせ壮観な展示で大好評であった。これまで春敬先生のコレクションは日書美秀華書展で一部ずつ毎年展覧されたが、大がかりなものは10数年前に五島美術館で企画展が開催されて以来で、今回はそれをしのぐ規模となり、「春敬記念文庫」「日本書道美術院」の総力を挙げての展観となつた。関係各位のご苦労は計り知れないものであった。

功労者表彰は60年の節目として行わ

れ、本院恩地理事長が担当寒竹香賀長辻元大雲が副委員長を務めた。展覧会運営、審査担当など功労を基準化して原案作成、書壇以外の学識経験者より運営の各氏をはじめ計73名の表彰となつた。本院関係では恩地春洋、香川倫子、浜田一堂、飯高和子、大野祥雲、辻元貢の各氏をはじめ計73名の表彰となつた。本院関係では恩地春洋、香川倫子、浜田一堂、飯高和子、大野祥雲、辻元貢の各氏をはじめ計73名の表彰となつた。本院関係では恩地春洋、香川倫子、

講演会、午後から恒例の表彰式、夕刻5時からは日比谷プレセントービル「アラスカ」にて書道芸術院主催の出品者懇親会が本院関係者200余名の参加を得て盛会であった。

ほかに7月20日、26日には国立新美

3階講堂にて会員賞受賞者による席上

揮毫会も新企画として行われ、本院か

な部木村東舟さんも揮毫、大いに観客

を魅了した。都美での昨年北京で開催

した「日中女流書代表作家東京展」の

開催、今秋のブラジル・サンパウロで

の代表作家展、台北での「現代日本代

表作家展」と故宮特別展示など多彩で

息つく暇もないが、よろしくご協力ご

支援くださるようお願いして総評とさせさせていただく。

第60回毎日書道展会員賞選考委員



第60回毎日書道展公募出品点数（会友含む）および入賞数

項 部別	毎日展総出品点数			芸術院出品点数			芸術院入選点数			毎日賞			秀作賞			佳作賞			U23毎日			U23新锐			U23獎勵		
	総数	U23	一般	会友	総数	U23	一般	会友	総数	芸術院	総数	芸術院	総数	芸術院	総数	芸院	総数	芸院	総数	芸院	総数	芸院	総数	芸院	総数	芸院	
漢字部	12,937	724	9,863	2,350	380	15	309	56	203	7	140	56	92	2	211	6	422	11	5	7	29	1					
かな部	5,657	175	4,441	1,041	291	2	249	40	170	1	129	40	40	2	92	5	185	9	1	2	7						
近代詩文書部	7,561	649	5,485	1,427	540	38	353	149	315	16	150	149	54	4	123	9	247	17	5	7	1	26	1				
大字書部	2,791	272	1,970	549	242	28	136	78	160	13	69	78	20	2	46	5	91	9	2	3	1	11					
篆刻部	645	41	502	102									4		11		21								2		
刻字部	979	31	841	107	129	3	95	31	82	2	49	31	7	1	16	2	32	4						1			
前衛書部	1,774	78	1,397	299	579	45	433	101	340	21	218	101	13	4	29	9	58	19	1	1	1	3	2				
合 計	32,344	1,970	24,499	5,875	2,161	131	1,575	455	1,270	60	755	455	230	15	528	36	1,056	69	14	1	20	2	79	4			

名兒耶明氏の「春敬の眼」展に関する
7月12日午前に五島美術館学芸部長
が贈呈された。

5時からは日比谷プレセントービル
「アラスカ」にて書道芸術院主催の出
品者懇親会が本院関係者200余名の参
加を得て盛会であった。

ほかに7月20日、26日には国立新美

3階講堂にて会員賞受賞者による席上

揮毫会も新企画として行われ、本院か

な部木村東舟さんも揮毫、大いに観客

を魅了した。都美での昨年北京で開催

した「日中女流書代表作家東京展」の

開催、今秋のブラジル・サンパウロで

の代表作家展、台北での「現代日本代

表作家展」と故宮特別展示など多彩で

息つく暇もないが、よろしくご協力ご

支援くださるようお願いして総評とさせさせていただく。

大字書部
辻川松月



毎 日 賞

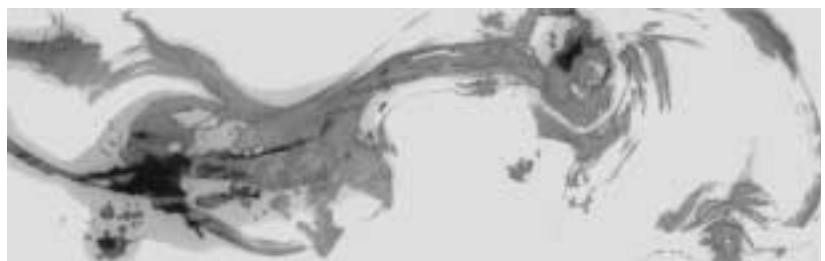
漢字部Ⅰ類 大川代香



近代詩文書部 伊藤翠心



かな部Ⅰ類 福田令子



前衛書部 一條紅蕭

毎 日 賞



漢字部Ⅱ類 西川藤象



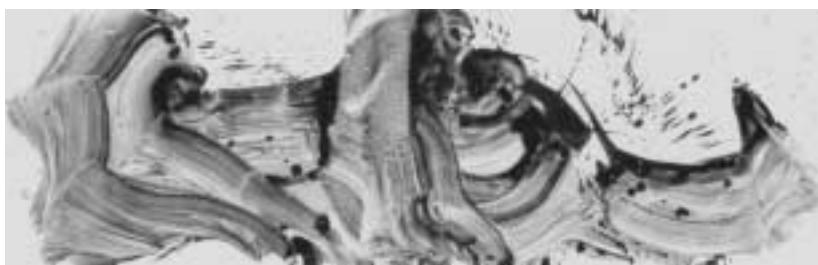
前衛書部
門脇信子



大字書部 松浦錦扇



近代詩文書部 青木雪華

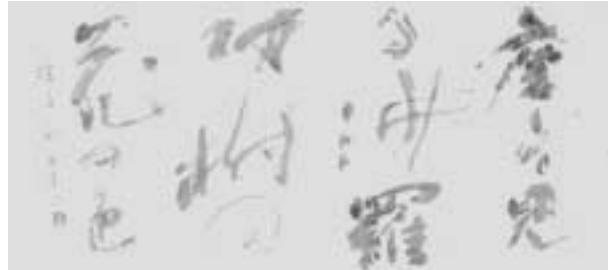


前衛書部 後藤法明

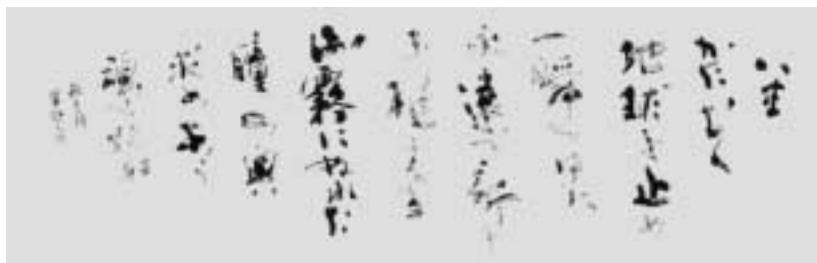
毎日賞



前衛書部
佐々木
浩子



近代詩文書部 寺尾京華



近代詩文書部 竹澤翠紅



刻字部 那須晴陽

かな部Ⅱ類 山下薰



秀作賞受賞者

佳作賞受賞者

・刻字部

大沼樵峰 篠田華所 安田憲子
遊佐聖心

・漢字部（I類）

妻藤江葉 高橋潤 藤井龍仙

・漢字部（II類）

菊池昌春 木村貴衣 土井琴翠

・かな部（I類）

九條純代 前田まさ美

・漢字部（II類）

上柳佳規 影山扇葉 木村香翠
西條祥葉 藤原聖美 松本深泉

・かな部（II類）

三沢喜雄 奥山湖仙 田口鈴水 中井祥映
南部華洋 南部華洋

・かな部（I類）

岩崎竹溪 岡部照芳 川口美智江
五代久美子 曾我昌子 田村玲子

・かな部（II類）

相澤敦子 相内珠莉 青木かよ
小野寺三枝 鶴井美智子 北澤利杜
佐藤華炎 高橋白雲 中村雅臣
星野成美 三村春景
佐々木みどり 佐々木蓮峰
工藤和香 今野白峰 酒井花雪
佐藤悦子 福田玉翠 藤丘茉萸

・近代詩文書部

阿部恵泉 阿部翠麗 小野寺聿源
川崎鯉舟 小竹正高 酒井優子
島貫洙燁 田中扇溪 本郷清浩

・近代詩文書部

岡部知江 鈴木才子 仙田孝子

・近代詩文書部

佐藤友希

・大字書部

江本興舟 大西春雪 乙倉翠芳
北嶋青湖 国吉真雲 佐藤星沙

・大字書部

坂口沙希

U 23 新銳賞

・漢字部（I類）

佐藤友希

・前衛書部

色川朴慧 小野朱星 岸直美
桑島有子 近野響神 鈴木春江
田子恵琉 茂木真蘭 山田明子

・大字書部

大原律子 岡田蕙雪 加藤正秀
永森千津 藤原江泉 細田清燕
水田春峰 横井正江 吉永春園

・近代詩文書部

岡田桜風 佐々木夏美
井上 悠
橋 由紀

U 23 毎日賞



前衛書部 後藤 步



(副賞)



毎日賞受賞者

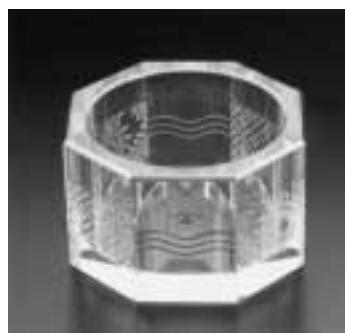


会員賞受賞者

秀作賞
筆置



毎日賞
筆洗



副
賞

佳作賞
文鎮



《文部科学大臣賞》
紹介



〈篆刻〉 稲村龍谷



U23 奨励賞



U23 新銳賞

〈解説〉哀冊には、米芾の書と一脈通じるところが

あり、米芾が“もつとも褚遂良を学んだ”と自ら言

うよう用筆、運筆が素晴らしい作で、筆の開閉や抑

揚、運筆の速さや筆圧を加減したり、いろいろな工

夫が施されている。細楷の氣分をたたえているが、

楷書の堅苦しさから抜け出した彼の作の中でも筆力

と充実感では、最高のものだと言われている。

(編集部)

※落款を必ず入れる

注= 漢字研究部競書作品は、署名、もしくは

左の法帖の中から
○○臨
何文字臨書してもよい。

(掲載部分以外は不可)

○○臨
(押印のみ可)



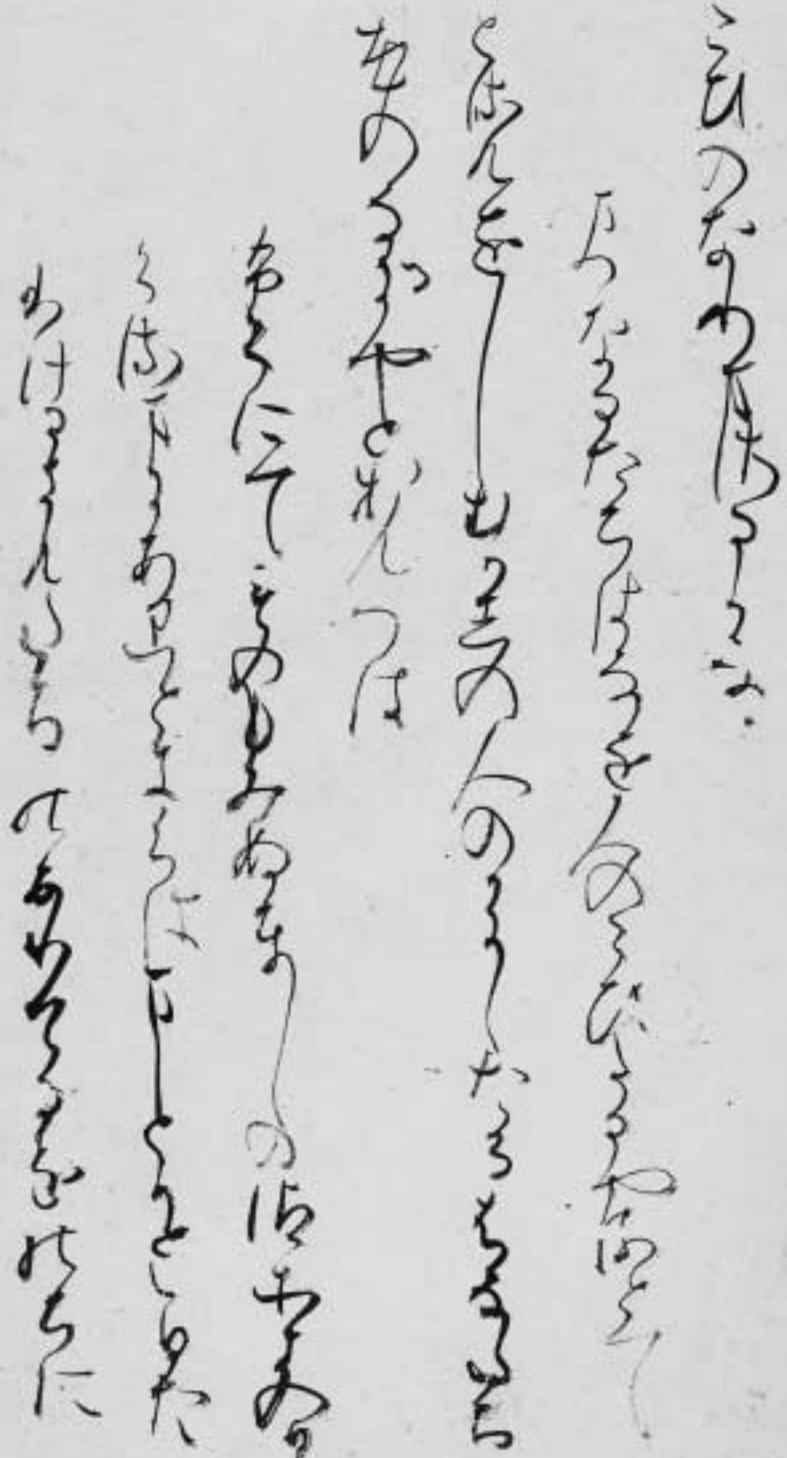
和司日。迫靈心於將錢。痛／皇情其如失。疑清秋於廣路。遡悲風／於長術。經柏梁而徐轉。邁蘭池而後蹕。聳輕旆之逶迤。動邊笳之蕭瑟。／嗚呼哀哉。周營甫也薨。漢啓泉闈。

〈解説〉 関戸本古今集の系統に属する
この続集切は、関戸本ほど文字の懐は
広くなく、やや求心的な形をしている。

構成では、和歌一首三行書きの二行目
の行の短縮により紙面の余白を増やし
て明るさを出している。
(編集部)

※左記の掲載
歌一首以上を書く
(全臨も可)
用紙
・半紙普通判
(料紙可)

※落款を必ず入れる。
署名「もしくは〇〇臨
(押印のみも可)





習い方解説 (六)

千葉耕風

青山紅樹

(青山に紅葉は一段と美しい)
王士禎の詩より

青山紅樹—秋の紅葉は冬の前の
飾りかと思う。「青山」二字が画
数が少なく「紅樹」は対照的に画
数が多い。書譜等の古典を参考に
して、バランスよく書いてください。
全体に曲のリズムを大切にして、余白美を求めてみました。
「樹」の草書は他にいろいろな
形がありますが、抑揚等つけ「山」
との調和を考えよう。

海闊(ひろびと)従魚躍
(海は闊く、魚の躍るに従う)

牧 泰濤



①上達のポイント(6)

可能な限りのベストを尽くす。

毎月何枚書いて出品しています

か。少なくとも一種50枚以上は。

なぐり書きでなくて。「若い時の

苦労は買うてもせよ」です。

②「5個の金メダルが大切なこと

はなくて、ベストをつくしたこと

が大切なんだ」。(前(後)人未踏

の五冠達成者、ソルトレイク冬季

五輪の巨人、ハイデンの言葉)

③今号で担当終了です。6ヶ月間

に私の言いたかったことは、①唐

代楷書の雄褚風の筆法を知る②羊

毫(八、九月は猪毫筆)の筆使い

に馴れる③半紙といえども作品。

落款押印も作品の一部。④努力と

継続なくして上達なし。——とい

うことです。みんなの競書の取

り組みあってこそ、院の発展があ

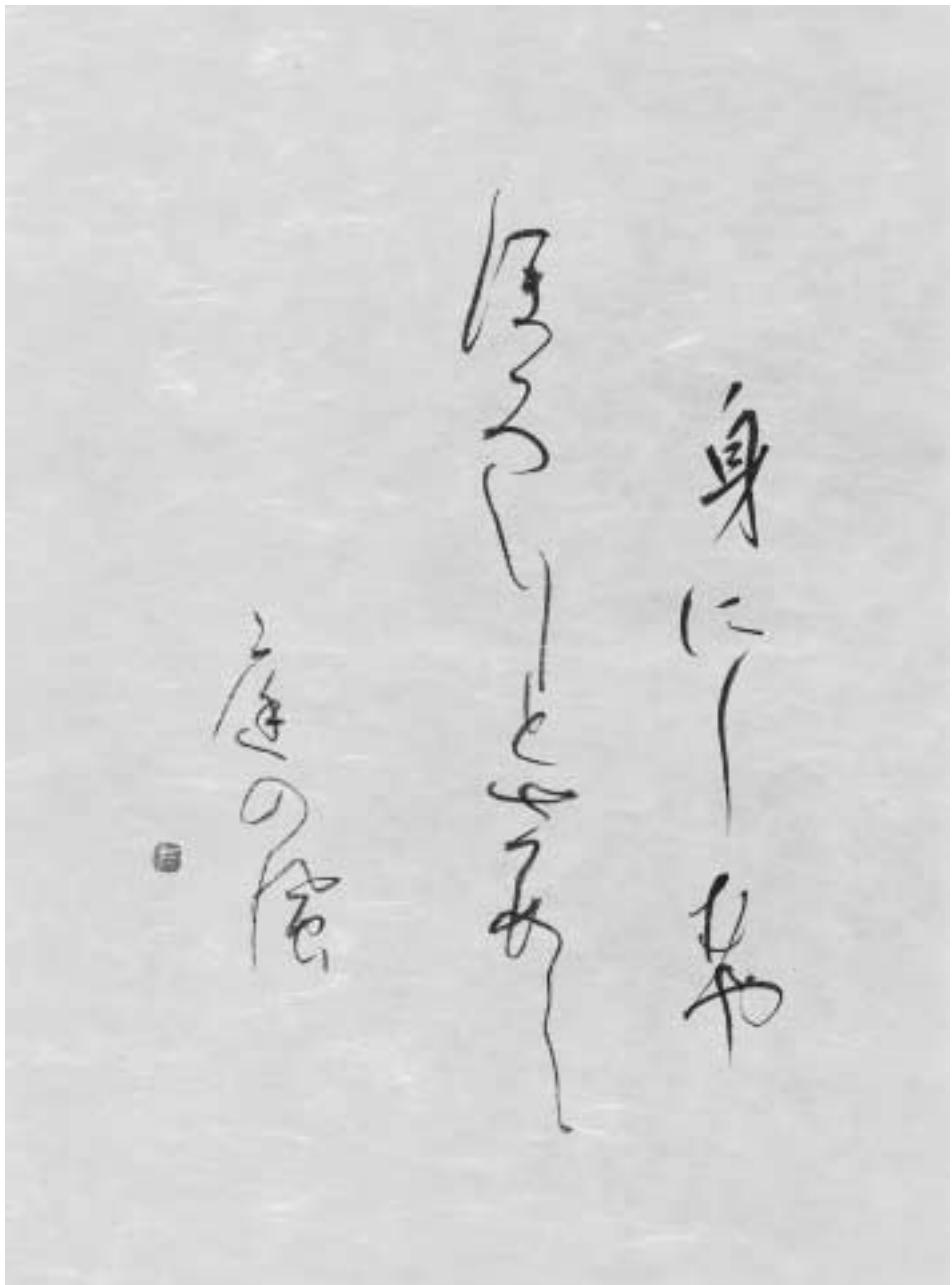
かな規定 初段以上【十月二十日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

大辻多希子選書

習い方解説 (六)

大辻多希子

身にしむやほろりとさめし庭の風
(室生犀星)



身に「しむ」は古くは身に染む
と宛てるべき用語例であつて、骨
身にしみとおる、しみじみと身に
味わう、といったことで、平安朝
歌人に愛用されて歌語として用い
られるようになつたと言われます。
書き出しは連綿をせず淡々と書
き進めました。前の字からの流れ
を受けて余白に気をつけ連綿へと
続けました。又三行の行間が均等
にならないよう配慮しながら流れ
を創ります。三行目は漢字が二文
字のため強くなり過ぎないように
墨付けはしませんでした。

かな作品を創作するためには古
筆の臨書は欠かせませんが、同時
に作品に融合する漢字を学ぶ事も
大切な要素です。平行して練習し
ましょ。

よみ方 身にしむやほろりとさめし庭の風

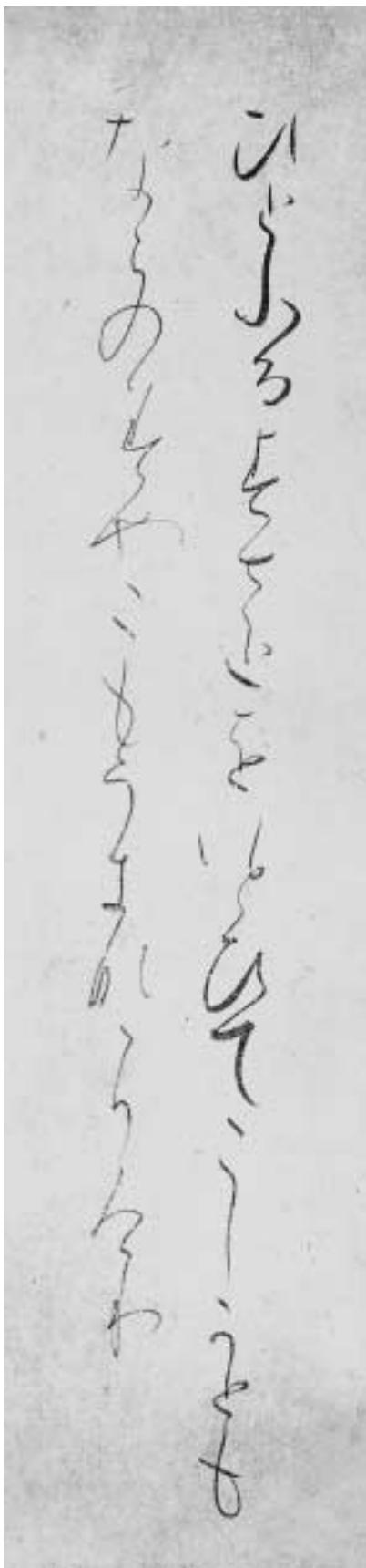
創作

かな規定 秀級以下【十月二十日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

高野切 第三種

(掲載写真縮小93%)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。



よみ方

ひとふるす(春)さとをいとひてこしか(町)ども
ならのみ(美)やこもうき(支)な(那)へりけ(介)り(利)

かな条幅規定【十月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

下谷洋子選書

習い方解説 (三)

秋の野やもの底なる草の花

(加賀千代)



よみ方 秋の野やもの底(トトロ)そ(レ)所(シ)こな(那)る草の(能)は(ハ)な(奈) 千代の句

創作

初句を独立した行とせず、一行のようにまとめました。ぶつからない程度に寄り添う行は、強弱を考慮しないと一行としてまとまりません。行の流れはかな美的大切な要素です。伸縮しながらの中心線の移動に注意してください。墨の文字だけでなく、残された白の部分を見て文字の大きさの把握をし、細くとも深く豊かな線でありますね。

*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 [十月二十日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

山内孝石選書

習い方解説 (六)

山 内 孝 石

静室：

塵もない静かな室に客も少く新し
い簾が斜面に影をのばす。

簾 =たけのこ

坡陀 =傾斜地

ゆったりと心落ちつけてあわてず
に書いてみましょう。

書体=自由



漢字条幅規定 秀級以下 [十月二十日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

生田翠龍選書

習い方解説 (六)

生 田 翠 龍

詩文は杜牧「山行」から二句。
総画数も多く、全体で送筆は縦が
二十、横と斜は四十程あります。

点画それぞれに固有性もあります。
し、こうなると“設計”が必要で
す。小生は書稿と呼んでいます。
それに基づいた習作も必要です。
充分に練成し、筆路を手になじ
ませてから清書にかかります。く
れぐれも練成は充分に…。



遠上寒山石徑斜 白雲生處有人家

(遠く寒山に上れば石径斜めなり 白雲生ずる処人家有り)

書体=自由

ペン字規定【十月二十日締めきり】

今村菁華選書

習い方解説 (六)

今村菁華

今月は俳句作品です。字数が少ないですから、大胆に、強弱をつけ、思いっきりペンを躍らせ、楽しんで書きました。

た。

我
寛
月
や
ゆ
か

は
矣
た
紙
の
音
ゆ
か

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

*落款を入れ忘れないようにしてください。
(落款は自分の名前を入れてください。)

今月の

各部総評 ホープ作品 No.566

ペン字部 師範 飯田 恵萩
澄明で豊かな字形。歌詞を口ずさみ書いたような心暖まる作品です。行間・全体の余白も見事。

◎ペン字部総評 全体の流れや行間の取り方は工夫されている作品が多くたが、誤字のある作品もあったのが残念。

(孝子評)

漢字条幅部 師範 王子谷煌水
濃墨のねばりある線質をいかし密度の濃い作。渴筆にリズムを感じられまとまりある作である。

◎漢字条幅部総評 上下級者共行草表現に力不足が目立つ。線質の強さと運筆のリズムを生かした作を期待したい。

(大雪評)



現代詩文書部 特選 北村 恵舟

氣力充美、情感を込めての筆致は力強く、躍動的で特に「降りしきる」に豊かな表現を見る。佳作。

◎現代詩文書部総評 毛筆による詩句の内容を書く(伝える表現)。文脈、字形、線の修練。(堂光評)



前衛書部 特選 高木百合子

紙を切るような鋭い線で作品構成もよく、白黒が美しい、鍊度の高い運筆すばらしい。

◎前衛書部総評 全体的に前衛書の表現力がすごく多様になりやすい。

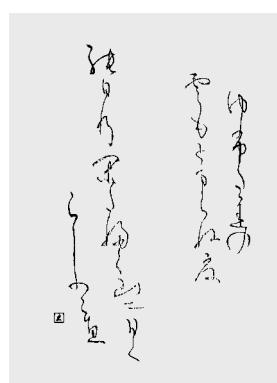
(如水評)



漢字部 師範 大槻 宣子
自然でのびやかに運筆して、ふところの広い、静かで豊かな心境の伺える作品となつた。

◎漢字部総評 光を含んで光つている作品、静かな中に力の籠った作品。今月は隸書に品格の高い作が多かった。

(春洋評)



漢字部 師範 大槻 宣子
自然でのびやかに運筆して、ふところの広い、静かで豊かな心境の伺える作品となつた。

◎漢字部総評 光を含んで光つている作品、静かな中に力の籠った作品。今月は隸書に品格の高い作が多かった。

(春洋評)

かな条幅部 準師範 鈴木 朝夫
闊達な筆が支配する紙面は、引き締まつていて華やかでもある。さらに墨量の研究を望みます。

◎かな条幅部総評 排句作品に慣れ、字粒の把握は全般によかった。墨の色、量の配慮に欠け、紙面を汚したものがあり残念。

(明子評)



かな部 師範 阿部五百子
オーバードックスな散らしですが、文字の大きさやゆったりしたりズムが街いなく清浄な世界を演出しますが、筆が小さすぎませんか? 或いは細い? 筆の腹を使わないと線に弾力が出ず貧相です。

(洋子評)



今月の

特別研究作品（特選）



40×148cm

田澤館楓書

現代詩文書

(北原) 田澤館楓

「林檎の白い花」

◆字の大小、潤渴、余白のリズミカルな変化が織りなす世界は、道造が見た快哉を叫ぶかも知れない、と思わせられます。線が美しい。

(明子評)

◆線冴えて余白に響く構成計画に従つて自在に字形を変形させて見事、只才人、才におぼれないように、自然さの中に才を込み込みたい。

(春洋評)

◆少々ふところがせまい氣もするが構成は的を得て安定感がある。細い線は少し固さがある。もう少し開いた渴筆があれば暖か味が加わる。

(蒼玄評)

漢字

(一弦) 木村貴衣

「凌霧之志」

◆気迫を込めて大きい紙に対し、構成の工夫をしている。線の切れはよいが線質も構成もまだ未完成、ある程度出来あがるまで時間をかけたい。(春洋評)

◆大字四字を一行に真正面から取り組んだ作。上部二字の広がりに対し下部二字ややつまり過ぎたか。更に深味ある練度の高い作への挑戦を。(大雲評)

◆大胆な一行の構成で空間に伸々と表現している。二字目がポイントであるうが少し重みがほしい氣もする。下部のまとまりは今一步。

(蒼玄評)

◆生来、心が安定している人なのか、この表現のときそだつたのか、安心して眺められる表現力です。ときには危うさも魅力の要素です。

(明子評)

／特選候補者／

漢 華祥 安藤 華祥
門脇 相澤 紫扇
卯月 森田 藤谷
志引 鈴木 朝夫
現 もく 前田 まさ美
西川 藤象

現 炎佳 佐藤 華炎
樹原 庄司 啓艸
水壑 伊澤 香雨
大隅 晃弘
矢野 弥生
蓮紅 浅野 彩紅

総評

「想像力だけが君を藝術家にする」とは画家ギュスター・ブローが学生達に説いた言葉だ。詩や漢詩、和歌、俳句を読み、それを作品にする時、あなたは何を思って紙に書き始めるか？詩文から

受ける心の広がりをどれだけ紙面に表現していると言えるのだろうか？書作品とはそれ自体独立したものでありながら、そこにテキストがある場合その解釈、あるいは批評の側面がある。そこに想像力を駆使して作品を作り上げる醍醐味があると言える。

今回は67点(漢16、か4、現26、前18、篆3)毎日展でつかれ氣味か出品が減、少々さびしい限りである。

(蒼玄)



木村貴衣書
180×60cm



佐藤希雲刻

〈縮小〉

篆
刻

(大雲) 佐藤希雲

「日高睡足猶慵起」

◆石をサクサクと刻している音が伝わるようだ。赤の空間を極力少なくして広がりを持たせている。強い線もほしいがそれは別な表現になるか? (章洋評)

◆刀の切れがよくなつた。線はまだ甘いが、一応まとまつてきた、まない作者の思い入れが、最近頓に伝わる気がします。技術向上以外の要素であろうかと次が楽しみです。
(明子評)

◆白文七字の一寸五分角印は存在感あり。大胆率直な刀法が明快で観者を魅きつける。切れ味のシャープさが逆に物足りなさを生むか。
(大雲評)

前衛書 (四谷)

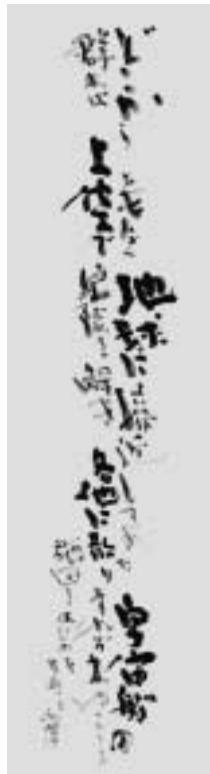
角田悠香
「連れ舞い」



◆上部の大きな動きを下部の集団で受けとめ空間に動きを与える。題名を考えると連れ舞は親子か、余白の響きが鮮烈な作である。
(大雲評)

現代詩文書
(白珠) 工藤永翠
「星新一の文」

工藤永翠書



174×45cm

篆
刻

(大雲) 佐藤希雲

「日高睡足猶慵起」

◆石をサクサクと刻している音が伝わるようだ。赤の空間を極力少なくして広がりを持たせている。強い線もほしいがそれは別な表現になるか? (章洋評)

◆書くことも刻すことも愛してやまない作者の思い入れが、最近頓に伝わる気がします。技術向上以外の要素であろうかと次が楽しみです。
(明子評)

◆白文七字の一寸五分角印は存在感あり。大胆率直な刀法が明快で観者を魅きつける。切れ味のシャープさが逆に物足りなさを生むか。
(大雲評)

角田悠香書
178×48cm

◆白の美しい作品である。黒の重みと白のバランスが空間に響いている。おしむらくは上と下の動きの方向に違いを持たせたい。
(蒼玄評)

◆作品群の中で、一際輝いていました。目立つだけでなく引きつけられたのは白の深さ、それを創った動き、そして過剰でない品性でしょう。
(明子評)

◆下部の小さい形が全体を支配する、墨のこぼれも生きて空間に存在を示して明快な造形作品となつた。さらっと軽みの作として観賞したい。
(春洋評)

◆墨の濃淡で奥行きを出し、紙の中央を中心とした構成でわずかに左右に振る点や画や墨で巧みに紙面を動かせる。然し何故か空虚、何故?
(春洋評)

◆今、再評価されている星新一の世界を、楽しく遊ぶように描いている。書の新しい可能性を感じさせる墨の工夫は明らかでもらいたい。
(明子評)

漢字研究部
(大唐中興頌)

選評 西林乘宣

今月のホープ作品



岡田千枝子



清 完成祥春
惠 次 治美秋翠

春善文柏澄初
蓮高枝秀香江

か千谷美吾
茜おり彩涼紀風

螢花青雅孝初
江雪山邦子香

漢字研究部 特選 岡田千枝子
迷わず選んだ逸品。いわゆる「顔法」を正確にとらえ、かつ素直にして暢びやかなり。本人と指導者双方の眼力に敬意を表し、あわせて多くの本誌書学者に、写真版でなく現物を見ていただきたい衝動に駆られる。

◎漢字研究部総評

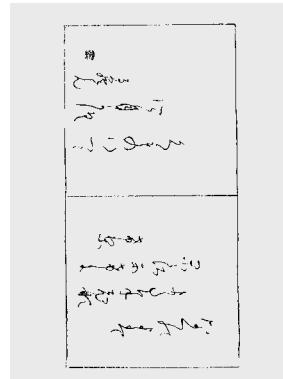
古典を臨書するに際して留意する点は、そ

である。本課題で言えば藏峰、向勢そしてハネ・ハライに決定的な特徴がある。それを知らずに何百枚書いても無意味であり、それを表現できれば2~3枚程度でも十分である。なお、一人の指導者のもとから出品される作品が、どれも判で押したように同じスタイルと表情なのはいかがなものか。もう少し個々の顔が見えるような作品が欲しいと思うのは、私だけではあるまい。

か な 研 究 部
(継色紙)

選評 黒川 江偉子

今月のホープ作品



藤井晴子

◎かな研究部総評

墨色に注意、臨書の場合墨色があまり薄いのは、粗雑に見えます。「久」に誤字が多く見られました。細心の配慮で筆を取ってください。

かな研究部 特選 藤井 暈子
絵色紙の微妙な運筆を、大きく堂々と書いて、目
事です。迷いのない線質は日頃の練度の賜もの。
らなる古筆の勉強を期待します。

١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠ ١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠	١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠ ١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠	١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠ ١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠	١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠ ١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠
١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠ ١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠	١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠ ١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠	١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠ ١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠	١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠ ١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠
١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠ ١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠	١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠ ١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠	١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠ ١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠	١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠ ١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠
١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠ ١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠	١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠ ١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠	١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠ ١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠	١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠ ١٢٣٤٥ ٦٧٨٩٠

初幸貞
江平子

正昌江理子子子

悦信晃

久良草
枝子秋

石前童う A 正八 習橋泉る I 華街	秀	五千百京玉青玉 A 蘭英玉卯秀澄湘五 A 高正秀椿正五正硯春 葉字谷橋松青葉 I 鼎峰松月水春南葉 I 峰華水翠葉華水汀
内碓今今伊石足 田井村関藤橋助	作	都北安吉橋林遠生末佐塙新高宮田高藤青菅門小秋加宮藤 丸川戸田本 山方棟藤澤谷橋内丸橋村木谷脇林山瀬澤井
皓 貴心寿知実 泉弘泉華子子枝	(50) どり	志由 江 谷佑紅雙ヒ美直桂嵐初幸貞正昌理悦信晃久良草晴 り祥秀子霞鶴子子香紅泉江平子子子子代枝子秋子
千葉佳	帝霜五春 塚月葉月	京大有艸秀皓英紅声大明八硯N書大湘彩広秀蘭千春泉大福書 櫻阪秋玄水映峰瑠菴香雲漢街H泉阪南 島峰鼎葉光会阪山泉
足 立 作	横湯森宮三堀福浜中寺田田須鈴鈴生嶋佐坂坂後小岸川河川神蘿片押岡岡 井本田川鳩川本本澤澤中中田木木島 々々口本口藤鷗田本連崎谷木山山本部 真シ	与木木と多
万 孫 喜	正桂陸春敏魯生々雅悟幹蒼香智香彩称町雅みし喜路東柴明優雲悦一純真照 江月子蓮子子エ子子子子舟舟代楓舟子莘芳よ子子子仙翠子卿子味子峰半	

遊京大秀
雲橋雲水
入
安東朝青
部倉木
通(50)
明花爽か
隆子陽よ
千皓
「た昌竜東高八東英竜翠東竜若詢生都英幕秀潮竜梓大竹大大英広春豊詢大生こ高こ土石英大秀高千硯書附大生こ大華も
葉映
か苑泉小崎街小峰泉吟小泉葉扇大賀峰張水音泉江雲扇峰島田扇阪大だ真だ氣習阪明真葉水泉中雲大だ阪祥く
渢重猿猿佐櫻佐酒齊齊後近小吳工君木吉北北菊木川河河片香香小小小小大梅梅臼牛上岩岩猪伊伊磯石五飯安新
谷信渡渡藤田久井藤藤藤藤藤
藤藤島島下瀬村爪田内元西岡合合野川浦野野川石山原井丸原根崎上又藤藤藤貝橋十田藤藤寺
裕間
愛侶冬纂初龍節恵永良早良閑さ豊山香春利彩惠重杏志茱瑠星和智美富文玉江萩雅星久虹綾美岳浜郁理紫則千清さ佳恵華藤
茱瑠星和智美富文玉江萩雅星久虹綾美岳浜郁理紫則千清さ佳恵華藤
茱瑠星和智美富文玉江萩雅星久虹綾美岳浜郁理紫則千清さ佳恵華藤

大春明春竹千前も大英生皓幕千大澄玄山木稻青大東前さ秀東土も雲秀も大竜翠華佑春渡英青竜秀東長大誠治田
選阪汀漢汀美葉橋橋く雲峰大映張葉阪春翠王曜毛峰雲小橋つ水向気く渓水く雲泉柳祥希汀辺峰『泉水岳月阪和田
外』
22六吉吉横湯八森森村村松松松増前前堀細藤福伴春浜花畠野西西長仲富戸積土近玉田辰田高高泉砂杉神新志麻
名波原田田山本木田下山田田島重佐田田島江村島川山田里山崎澤川尾西澤部田谷池木中本口口橋橋水川川浦野谷村本
氏羅三千登と理まみふ雅龍洋菊蘂翠抱麻
名等式鶴泰蘭禮順藤祥龍映翠白華陽代幸貴純和良勝智芝愛蘿藤翠游恵悦柳恵光子千美千雅龍洋菊蘂翠抱麻
等玉子子舟子子谷泉峰満華舟景鉛秀子子泉子一香子美子子香美象峰溪子子雲江芳翠子千泉宝子華枝碧光舟子

玉松会12人書展を訪ねて

村野大仙

会期 平成20年7月7日(月)
～13日(日)

会場

ロイヤルサロン

(東京・銀座)

員であり毎日書道展の審査会員と会員で会員に昇格すると仲間入りする仕組み、言わば同会のリーダー格の人たちの書展である。この方たちの書への姿勢が玉松会充実の原動力であると受けとめ意義深い書展と理解している。

玉松会生みの親である永井幸子先生永眠から久しくなるが、指導者を失うとその時から直接教えを乞う事は出来ない。しかし、亡き師をいつまでも心の中に留め置き、師の生き方、考え方をじっと見つめ直して学びることは可能だ。それこそ生涯の師として生かし仰げる道だと思う。

今年も毎日書道展開幕に合わせたこの時期、銀座のど真ん中で玉松会恒例の12人書展が開かれた。歩行に自信を持てなくなつた私だが、どうしても欠かすことの出来ない楽しみにしている書展だ。玉松会書展35回を記念して始められたこの企画、年によって人数が違う。出品者は、書道芸術院の審査会

としての自覚を堅固にし、互いに切磋琢磨している研鑽ぶりが目に見える様でうらやましい位だ。各自個性を生かしたままの位だ。各自個性を生かしての出来事だ。玉松会書展はりまぜ

予

告

◇10月号の課題

漢字規定(初段以上)

新月始(チヨウハジメ)

漢字規定(秀級以下)

大器晚成

かな規定(初段以上)半紙(料紙可)
み空より雲居くだりて秋ぐさの
花野にわたる風のくまなさ

かな規定(秀級以下)絶句(高野切第三種)
「うきよにはかどせりともみえなく
になどかわがみのいでがてにする」



会場風景

表紙写真 「和泉式部統集切上巻切」



玉松会12人書展はりまぜ

出品券

(バーコード出品券に貼付)

10月20日締切

ペン字規定

神様がたつた一度だけ
この腕を動かして下さる
としたら母の肩をたたか
せてもらおう

「花によせて」より

漢字条幅規定(初段以上)

(斎藤茂吉)

漢字条幅規定(秀級以下)

物換星移度幾秋一

静者心自妙

かな条幅規定(料紙可)漢字条幅規定(初段以上)
ながらふる月の光に照らされし
わが足もとの秋ぐさのはな

規 定 部

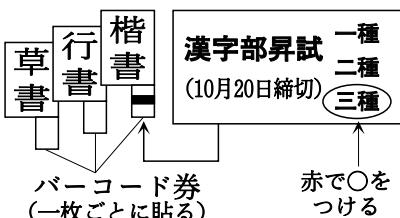
昇級試験の出品方法と取り扱い

- ◆作品一枚ごとに右下にバーコード券を付ける。
- ◆昇級試験用出品券を貼付欄に貼るのは一番上（一枚目）だけよい。
- ◆受験する種に赤で○をつける。

※注意

- ▲昇級試験用出品券のコピー使用は不可。また、私製出品券も使用不可。
- ▲貼付の際はヤマトのりを使用。

〈例：三種の場合〉 漢字部三種受験



漢字部昇試
(10月20日締切)

一種
二種
三種

569. 10月20日締切

漢字

かな部昇試
(10月20日締切)

一種
二種

569. 10月20日締切

かな

漢字条幅部昇試
(10月20日締切)

一種
二種

569. 10月20日締切

漢字条幅

かな条幅部昇試
(10月20日締切)

一種
二種
三種

569. 10月20日締切

かな条幅

ペン字部昇試
(10月20日締切)

一種
二種
三種

569. 10月20日締切

ペン字

書道芸術院秋季展

●書道芸術院役員 ●審査会員選抜 ●審査会員候補公募

会期=平成20年9月30日(火)～10月5日(日)

10時～18時(最終日は17時まで)

会場=東京セントラル美術館(5F)

東京都中央区銀座2-7-18 TEL.03-3564-4813

主催=(財)書道芸術院

後援=毎日新聞社

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7 東神田プラザビル3階

電話 03-3862-1954

田村澄子書作展

～田村澄子 40年の書歴を振りかえる～

2008年9月29日(月)～10月5日(日)

11:00～18:00 初日 13:00開場 最終日 17:00終了

ロイヤルサロン

中央区銀座5-8-1サッポロ銀座ビル8F

TEL 03-3572-1588(直通)

遺墨 永井幸子先生

●後援 玉松会 每日新聞社 (財)書道芸術院 全日本書道連盟

●主催 〒165-0026 中野区新井1-30-6-202 田村澄子 TEL 03-3385-3956

第44回 竹扇会書展

「自然とかたる」

会期 平成20年9月11日(木)～15日(月・祝)

会場 大阪市立大阪くらしの今昔館

(企画展示室)

後援 (財)書道芸術院 每日新聞社

第32回 白玄会書展

会期 平成20年10月17日(金)～10月22日(水)

10時～18時(最終日は16時終了)

会場 高崎シティギャラリー(第1展示室)

後援 (財)書道芸術院

(財)群馬県教育文化事業団

毎日新聞前橋支局 その他

第31回 馨香会展

会期 平成20年9月30日(火)～10月5日(日)

10時～18時(最終日は17時終了)

会場 東京銀座画廊美術館 8FC会場

後援 (財)書道芸術院

毎日新聞社

(財)毎日書道会

569. 10月20日締切

漢字研究

569. 10月20日締切

かな研究

569. 10月20日締切

のりしろ

(569)特別研究作品

出品該当部門に赤○印

漢	か	現	篆	前	支局・支部名 題名・記文 氏名
---	---	---	---	---	-----------------------

--	--	--	--	--

--	--	--	--	--

--	--	--	--	--

--	--	--	--	--

--	--	--	--	--

--	--	--	--	--

--	--	--	--	--

--	--	--	--	--

--	--	--	--	--

--	--	--	--	--

